

将来の夢は、独立して自分の会社をつくること



東京都職業能力開発協会 会長賞

第26期生 浅利 漣さんに思い出と抱負を聞く

修了式で決意表明する浅利さん

◇工業高校建築科卒業後に建築力レッジに入ろうと決めた理由は?

◇力レッジの合同企業面接会に参加して川津工務店を選んだのでしたね。

練習で鑿（のみ）と鉋（かんな）をしつかり研ぐのと、墨付けを覚えるのがとても大変でした、また、カレッジの良いところは同じ職種の同年代の仲間ができることがあります。

◇今年の3月3日まで「皆勤」（遅刻、早退、欠席無し）。模範を示してくれました。働きながら学ぶハードな学校で皆勤は並大抵なことではで

◇卒業制作、突貫工事で
したが、なかなか良い出来栄えのように思いました。
た。日曜日に作業しないのは、先生や先輩には違和感があつたようですが、皆さんのメッセージのようにも感じました。安易に休みを返上して仕事をしましまう職人の在り方へのアンチテーゼでしょう。

仕事の都合や体調不良で休むのは仕方がないとは思いますが、寝坊などで遅刻するのは会社にお金を出してもらうって通わせてもらつてるので良くないことなので気をつけた方が良いと思います。

3月25日、東京建築カレッジは第26期生の修了式を池袋校舎で行いました。入学時23人でしたが修了生は15人。働きながら初心を貫き学び続けるにはどうしたらしいか、研修生も、学校側も考えさせられた期でした。感染予防のため、来賓は一部に限定しましたが、修了式後は第27期生にも参加してもらい、同じ会場で、ささやかな祝賀会を行いました。グランプリ（最上位賞）受賞の浅利澤（あさり・れい）さんに2年間の思い出、今後の決意を聞きました。

カレッジ通信

編集・発行

授業見学
大歓迎！

TEL 03
(5950)
1771



上写真：技能照査実技試験（1月20・21日）、
下写真：「住宅自由設計」プレゼンテーション

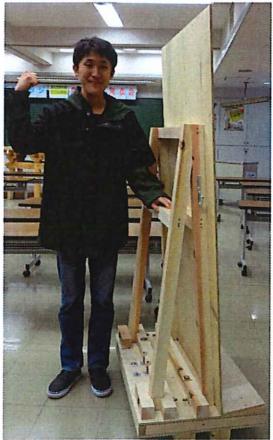
過去最悪！？の遅れを挽回 全作品完成で卒制発表会

第26期生の卒業制作は、カレッジ史上過去最悪！？の遅れで先生方や事務局から心配されていました。しかし、短期集中型で全員団結し、3月11日の卒業制作発表会を全作品完成で迎えることができました。



上写真：「教卓」班
左写真：「屋台」班
下左：「小屋」班
下右：「ポニ一台車」班

「教卓」は「カレッジの教室の教卓が市販のスチール製受付カウンターで良いのか」という問い合わせが起点。修了式では演台として使われました。



（浅利さんインタビュー続き）
卒業制作は日曜日に作業をしなくても終わるのが見えているのでしていませんでした。また、休みをしつかり取るのはとても大事な事だと思います。

◇浅利さんは川津工務店で今、どんな仕事をしているのですか？当面の目標、将来の夢もお聞かせください。

今やっている仕事は主に新築戸建ての大工工事で、ボード貼りなどの内部造

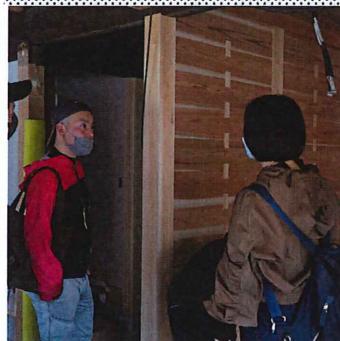
が多いです。
当面の目標は在来工法（軸組み）、2×4（ツーバイフォー）工法のどちらも1人で建てられるようになることです。将来の夢は独立して自分の会社を設けることです。◆

「休みをしつかり取るのは大事」 日曜日の作業無しの卒業制作

3年ぶりに「奈良宿泊研修」

24・25期生も参加

奈良「伝建地区」在住の卒業生の現場も見学



卒業生が手掛ける宇陀市松山地区の現場

3月16日～18日夜行一泊、現地二泊の「奈良宿泊研修」を行いました。同研修は19年11月、

第23期生以来、3年ぶりの実施です。中止した年の第24・25期生から7人が参加、カレッジ生22人、引率者8人、計30人で出かけました。

今回は国宝級の文化財修復工事現場の見学はなかつたものの、「伝統的建造物群保存地区」の橿原市今井町と、宇陀市大宇陀（松山地区）で、古民家のリノベーション（大規模改修）工事を間近に見ることができました。

第10期生の増井小綾さん（一級建築士）はカレッジ卒業後、奈良に転居し構造設計などに従事。今回の奈良研修では宇陀市松山地区内の自宅兼設計事務所の改修工事など現地での仕事を後輩たちに解説してくれました。